

共同研究成果報告書

作成日 平成 22 年 5 月 20 日

研究課題名	学芸書としての中世類題集の研究 - 『夫木和歌抄』を中心に-					
所属研究部局 ・職名	文学資源研究系	ふりがな	てらしま つねよ			
	・教授	研究代表者氏名	寺 島 恒 世			
研究形態	1. 基幹研究 2. 共同研究 (3.) プロジェクト研究 4. その他 ()					
研究の位置づけ	(1.) 中期目標・中期計画に記載 2. その他 ()					
研究期間	平成 16 年度 ~ 平成 21 年度		6 年計画の第 6 年次			
研究経費	年 度	研究経費	経 費 内 訳 (単位:円)			
			物品費	旅 費	謝金等	その他
	平成16年度	1,268,983	677,106	0	0	591,877
	平成17年度	4,161,393	2,073,067	365,730	342,950	1,379,646
	平成18年度	864,200	120,774	659,410	0	84,016
	平成19年度	1,079,899	392,112	478,240	0	209,547
	平成20年度	961,692	94,500	797,850	0	69,342
	平成21年度	489,550	0	302,650	0	186,900
総 計	8,825,717	3,357,559	2,603,880	342,950	2,521,328	

研究組織				
氏名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役割分担	エフオート (%)
(研究代表者)				
田淵 旬美子 (平成16年度～19年度)	文学資源研究系・教授	中世文学	全体の統括及び編纂資料の研究 (散文)	10
寺島 恒世 (平成20年度～21年度)	文学資源研究系・教授	中世文学	全体の統括及び編纂資料の研究 (散文)	10
(研究分担者)				
久保木 秀夫	文学資源研究系・助教	中古文学	編纂資料の研究(韻文)	10
齋藤 真麻理	文学形成研究系・准教授	中世文学	室町期における享受(学芸)	10
田淵 旬美子 (平成20年度～21年度)	早稲田大学・教育・総合科学学 術院・教授	中世文学	室町期における享受	10
				5
石澤 一志	目白大学・社会学部メディア表 現学科・専任講師	中世文学	編者と成立圏の研究	5
伊藤 善隆	湘北短期大学・総合ビジネス学 科・准教授	近世文学	江戸期における享受(俳諧)	5
				5
大谷 俊太	奈良女子大学・文学部・教授	中世・近世文学	言語・歌語の研究	5
鈴木 健一	学習院大学・文学部・教授	近世文学	江戸期における享受(韻文)	5
鈴木 元	熊本県立大学。文学部・教授	近世文学	室町期における享受(連歌)	5
福田 安典	愛媛大学・教育学部・教授	近世文学	江戸期における享受(散文)	5
三戸 信恵	サントリー美術館・学芸員	絵画	類題集と絵画の研究	
三村 晃功	京都光華女子大学・人文学部・ 教授	中世文学	類題集と類題集史の研究	5
渡邊 裕美子	宇都宮大学・教育学部・非常勤 講師	中世文学	歌合と類題集の研究	5
小川 剛生	慶應義塾大学・文学部・准教授	中世文学	室町期における享受(韻文)	
合計14名				

【概要（背景と目的）】

- ・「背景」と「目的」は、概要の中に含めて記入している場合は、特立して記す必要はありません。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。
- ・【全体の研究成果】等他の記入欄と同内容のことを書かざるを得ない場合でも、他の記入欄と数行にわたって同一内容（成果出版物の目次を記す等）になるような記入はしないで下さい。

鎌倉時代成立の『夫木和歌抄』は一万七千首余を収める中世最大の私撰和歌集であり、散佚資料の宝庫としても使われてきたが、その集としての特質や享受については殆ど研究がなされてこなかった。

本研究は、この鎌倉時代末期成立の類題集『夫木和歌抄』につき、従来見られてきたような単なる和歌集成書ではなく、ひとつの学芸書として捉えた上で、その知の構築と享受の具体相を明らかにし、かつ和歌史・文学史・学芸史上におけるその位置づけを行うことを目的とするものである。

共同研究を進めるに当たっては、『夫木和歌抄』を単なる和歌集成書としてではなく、一つの作品として捉え、その知の体系の構築と、後世の学芸諸領域に於ける享受の具体相とを明らかにしたいと考えた。とりわけ、和歌史・学芸史・文学史の中において、その文化史的な位置づけを行いつつ、特質と享受を明らかにすることを主要な目的とする。

さらに、関連する類題集などの資料・比較資料も視野に入れ、本書の性格の多面的な解明を目指すことを目指し、可能な限り幅広い視野にたつて研究を進めることを試みた。

具体的には、『夫木和歌抄』及び関連の類題集について、

- 1、重要な伝本・抄出本の調査と研究
- 2、編纂資料の研究、及び出典注記などに基づく散佚資料の復元研究
- 3、題の設定及び左注をめぐる諸問題
- 4、中世および近世の類題集・私撰集の中での位置づけ
- 5、本書編集の意図とその成立事情、特に編者・文化圏の解明
- 6、室町から近世までの本書享受の具体相とその資料、特に学芸・連歌・俳諧・絵画への影響の解明
- 7、版本・抜書類の形成と流布

の観点を設定し、それぞれの側面から究明を進め、学芸書としての『夫木和歌抄』を新たに捉え直した。

[全体の研究成果]

- ・この欄に、全ての出版物を並べて記入しないようにして下さい。出版物の一部分を記入することは構いませんが、成果物の一覧は、[成果出版物・論文等]の欄に記入して下さい。
- ・半頁以上、1頁以内で記入して下さい。

平成16年度開始のプロジェクトとして、1年の準備期間の後、研究会の開催と資料調査を主とした活発な共同研究を展開し、平成20年3月にそれらの成果として、著書『夫木和歌抄 編纂と享受』（風間書房）を刊行した。本書には4年間で成し遂げた成果を盛り込み、当初の目的に適う成果の公表を果たした。

著書の内容は次の【出版物】の項に示す通りで、研究篇と資料篇に分け、メンバーそれぞれが進めてきた研究を論文の形で発表するとともに、『夫木和歌抄』の諸伝本に関する「書目一覧」及び「享受史年表」を作成し、周辺資料を含む貴重書の「翻刻」「解題」と併せて掲出した。

ただし当初、成果物の刊行は最終年度に予定しており、上記著書は、暫定評価のためにそれを2年早め、平成20年3月に刊行したものである。それゆえ、共同研究会での論議はかなり行っているものの、一部において調査や考察が未了の部分もあり、相互の討議によってさらに研究を深化させよう側面があった。

このため、平成20年度においては、未調査の伝本についての確認作業を行い、また西順自筆『夫木和歌抄抜書』など関連資料を所蔵する愛媛大学における調査を行って、研究を補完した。同時に、同大学で研究会を開催し、新たな代表者となった寺島が、著書の成果物を主たる対象に研究の総括を行った。

平成21年度は各自で研究を進め、最後に研究会を開催して全体の成果を総括した。

以上の著書刊行後の2年間の成果は、平成21年度研究成果報告書『学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—』に掲載した。

報告書の内容は、以下の通りである。

- 研究活動の記録 寺島恒世
- 『夫木和歌抄 編纂と享受』講評 寺島恒世
- 論文

福田安典「近世後期類題集の諸問題—国文学研究資料館所蔵『類題高調集』を考えるために—」

三村晃功「国文学研究資料館蔵『二八明題和歌集』考」

【成果出版物・論文等】

- ・年次順に分けずに、【出版物】、【論文】、【その他（学会発表）（公開データベース）等】の区分で記入して下さい。記入内容は、出版物の場合は、書名（平成□□年□月、□□書房、全□□□頁）、内容（執筆者名、論文名）とし、論文の場合は、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、最初と最後の頁、発表年月、査読の有無を原則とします。
- ・論文名は「 」に、書名・雑誌名は『 』に入れるのを原則とします。
- ・論文名や学会発表、データベース名は、一件ごとに「・」や①②③…を使って区別しやすいように記入して下さい。
- ・データベースは公開されているもののみ記載して下さい。

【出版物】

『夫木和歌抄 編纂と享受』（平成20年3月、風間書房、616頁）

（内容は以下の通り。但し副題は省略。）

序論 田淵句美子

本論 研究篇

第1章 編纂と特質

石澤一志「『夫木和歌抄』の成立とその性格」／渡邊裕美子「『夫木和歌抄』所載歌合判詞について」／久保木秀夫「勝命作『懐中抄』」／田淵句美子「『夫木和歌抄』における名所歌」

第2章 学芸と変容

小川剛生「古歌の集積と再編」／齋藤真麻理「異類の歌合と『夫木和歌抄』」／鈴木元「『夫木和歌抄』の享受と連歌」

第3章 享受と展開

三村晃功「三手文庫蔵『百草和歌抄』の成立」／三村晃功「三手文庫蔵『百木和歌抄』の成立」／鈴木健一「類題和歌集における「蛙」題の展開」／伊藤善隆「名所付合語集『武蔵野』について」／福田安典「近世期における『夫木和歌抄』」

付章 三村晃功「類題和歌集概観」

資料篇 「『夫木和歌抄』伝本書目」／小川剛生「『夫木和歌抄』享受史年表」／石澤一志「伝後小松院筆『夫木和歌抄』影印・翻刻」／小川剛生「後崇光院筆『拾葉抄』解題・翻刻」／齋藤真麻理「叡山文庫本『夫木和歌抄』解題・翻刻」／齋藤真麻理「『鳥類八百首』解題・翻刻」

【論文】

- ・福田安典「近世後期類題集の諸問題—国文学研究資料館所蔵『類題高調集』を考えるために—」、平成21年度研究成果報告書『学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—』、PP, 8~14、平成22年3月、査読無
- ・三村晃功「国文学研究資料館蔵『二八明題和歌集』考」、平成21年度研究成果報告書『学芸書としての中世類題集の研究—『夫木和歌抄』を中心に—』、PP, 15~29、平成22年3月、査読無

【その他】

（学会発表）

- ・小川剛生「『夫木和歌抄』の成立と享受—各種抄出本を中心として—」和歌文学会例会、平成18年7月
- ・石澤一志「夫木抄と為家」和歌文学会関西例会、平成19年7月

（両発表の成果はともに上記出版物に収載。）

[展示・シンポジウム]

(展示)

タイトル、会期（期間）、会場、入場者概数

(シンポジウム・講演会)

タイトル、期日、会場、参加人数概数、個別発表者名・講演者名、個別発表・講演タイトル

展示に付随した講演などは、頭に「*」を付して展示の項に註記しても構いません。

【研究会・資料調査】

年度毎に分けて日付順に研究会と資料調査を別々に記入して下さい。（研究打合せは記入しないこと。）

【平成〇〇年度】

(研究会)

期日、会場、発表者（報告者）とタイトル

(資料調査)

期日、調査先

【平成16年度】

研究開始年度にあたり、館内メンバー4名のみで、計画の具体的準備、文献調査、基礎的資料とデータの収集を行った。したがって、研究会・資料調査は実施していない。

【平成17年度】

(研究会)

第1回

期日：平成17年8月29日

会場：国文学研究資料館

発表：久保木秀夫「類題集出典注記に関する一考察—勝命撰『懐中抄』を視座として—」

第2回

期日：平成18年1月13日

会場：国文学研究資料館

発表：(1) 小川剛生「『夫木和歌抄』成立考—『扶桑葉林』をめぐって」

(2) 三村晃功「三手文庫蔵『百草和歌抄』の成立」

(資料調査)

夫木和歌抄・拾葉抄・鳥類八百首等の原本調査

(調査先：叡山文庫・宮内庁書陵部・岩国徴古館・愛媛大学附属図書館)

夫木抄抜書・歌枕名寄・室町中期連歌学書等、関連資料の翻刻

【平成18年度】

(研究会)

第1回

期日：平成18年8月30日

会場：国文学研究資料館

発表：(1) 鈴木健一「近世における類題集とその歌題の展開」

(2) 福田安典「近世期における『夫木和歌抄』—西順を中心に—」

第2回

期日：平成18年12月22日

会場：国文学研究資料館

発表：(1) 伊藤善隆「名所付合語集『武蔵野』について」

(2) 齋藤真麻理「異類の歌合」

(資料調査)

夫木和歌抄

(調査先、大阪府立中之島図書館・島原松平文庫)

当館蔵伝後小松院筆『夫木抄』残欠本・『二八明題集』・『室町中期連歌学書』調査

当館蔵『類題和歌高調集』の調査・デジタル撮影

【平成19年度】

(研究会)

第1回

期日：平成19年8月28日

会場：国文学研究資料館

発表：(1) 石澤一志「夫木抄と為家」

(2) 渡邊裕美子「『夫木和歌抄』所載歌合判詞について」

第2回

期日：平成19年8月29日

会場：国文学研究資料館

発表：(1) 田淵句美子「『夫木和歌抄』と日記・紀行」

(2) 鈴木元「『夫木和歌抄』の享受と連歌」

【平成20年度】

(研究会)

期日：平成20年8月18日

会場：愛媛大学附属図書館

発表：寺島恒世「『夫木和歌抄 編纂と享受』について」

(資料調査)

期日：平成20年8月18日・19日

調査先：愛媛大学附属図書館

調査資料：鈴木本西順自筆『夫木和歌抄抜書』を含む当館所蔵本

【平成21年度】

(研究会)

期日：平成21年12月12日

会場：国文学研究資料館

発表：(1) 久保木秀夫「陽明文庫蔵『愚聚抄』の紹介—『夫木抄』享受に関する一資料—」

(2) 石澤 一志「国書刊行会本『夫木和歌抄』の成立」

(3) 福田 安典「近世後期類題集の諸問題—国文学研究資料館所蔵『類題高調集』をめぐって—」

(4) 三村 晃功「国文学研究資料館蔵『二八明題和歌集』考」